学生服の今～学校の制服の歴史と制服選択制～

問人権・同和教育課人権・同和教育係　☎72-2111

人権の視点から、学校の制服（学生服）の歴史と制服選択制に焦点を当て、紹介します。学生服の在り方を通して、身近な人権問題を一緒に考えましょう。

制服の歴史

学生服の歴史は古く、今から140年ほど前に登場した、男子の詰め襟（つめえり）、女子の袴が学生服のはじまりと言われています。第２次世界大戦時には、それまでの詰め襟の学生服は少なくなり、替わって国民服といわれるものが制服を兼ねるようになり、女子もモンペを着るようになりました。

戦後は、男子の詰め襟が復活し、女子はセーラー服が学生服として一般化します。

高度経済成長期には、化学繊維を使った耐久性に優れた丈夫な制服が量産されました。

90年代に入ると、有名デザイナー作成のブランド制服が登場。制服の色も、それまで一般的だった黒や紺色系だけでなく、赤や緑、青、ライトブルーなどカラフルになり、デザインも「ワンピース型」や「ブレザー型」などバリエーションが増えました。

自分らしく～制服を自分で選べる時代に～

現在は、性の多様性を認め合う新しい制服が登場しています。スカートやスラックス、リボンやネクタイの選択、前合わせを自由に変えられる男女兼用デザインのブレザーなど、子どもたちが自分に合った制服を選べるような工夫・変化が見られるようになりました。

市立中学校では、制服の選択制を導入しています。かつては、男子生徒は詰め襟、女子生徒はセーラー服と決まっていましたが、性別に関係なくズボンとスカート、ブレザーの形状などを選択できるようになりました。

現在の小郡市立大原中学校の制服

生徒・先生・保護者からの声

- スカートかスラックス、どちらにしようか迷いましたが、自分らしさや機能性を考えてスラックスにしました。動きやすくてとても気に入っています（中学２年生）
- 「校則検討委員会」で生徒と一緒にいろいろな意見を出し合いながら、より良い制服選択制の在り方に向けた見直しをしています（中学３年生担任）
- "自分で決める"というところに自主性を感じました。子どもから大人へ成長する過程で、生き方を考える良い機会だと思います（中学１年保護者）

全ての子どもたちが自分の意志で制服を選択できるよう、さらに検討を進めています。多様な性の在り方を大切にすることは、一人ひとりの人権を大切にする取組につながっています。